

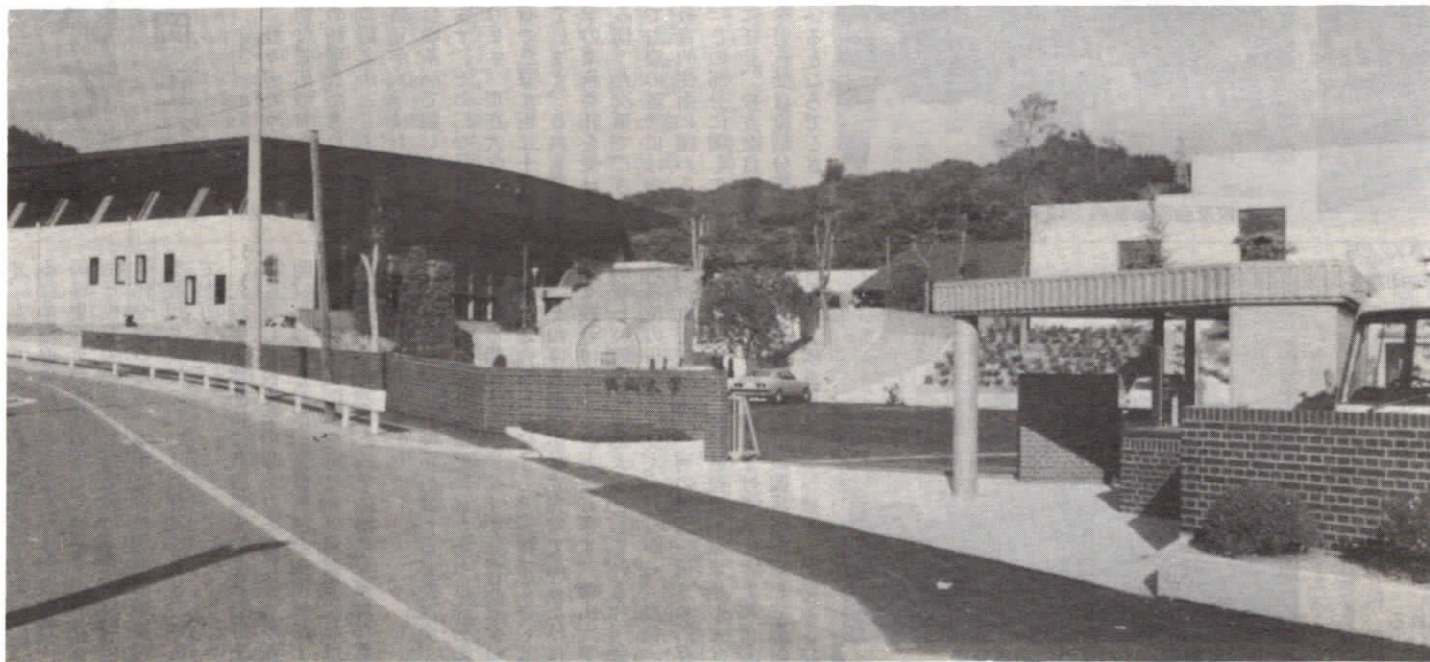


# 第3号

発行所 徳山大学校友会  
〒745 山口県徳山市久米  
徳山大学学生課内  
TEL 0834 (28) 0411(代)

発行責任者 豊岡正行  
編集発行人 藤岡正史  
印刷所 富田印刷株式会社

## 草創期から発展期へ！



### 今田竹千代学長退任

#### 後任は高村理事長が兼務

##### 二十周年へ向けてスタート

昨年十一月、十周年記念式典を盛大に挙  
行した徳山大学であるが、校友会諸氏には  
なじみの深い今田竹千代学長が、昨年十二  
月三十一日付で病気の為、学長を辞任され  
後任として高村坂彦理事長が、学長兼務さ  
れることになった。

真の人間形成を、という大学作りが平坦  
な道ではなかったことはいうまでもないが  
百七十七人でスタートした受験者は、この  
春、四・四倍の競争率となって千四百七十  
七人を数えた。開学わずか十年で、これほ  
どの位置を確立した大学もまた珍しい。

十周年記念事業では、校舎十号館と体育  
館兼講堂が四億八千万円で完成、形態はほ  
ぼ整った。これからは大学として真に機能  
する時期に入る。

広く市民に開かれた大学として、又、知  
・徳・体一体の学園として、さらには西日  
本有数の学問の府として大きく伸びるのは  
これからである。

徳山大学は、創立二十周年に向けて新た  
に第一歩を踏み出した。



航空写真 大学全景

▲十周年記念事業で建設した記念会館  
屋外ステージ



学長退任の挨拶  
徳山大学前学長 今田竹千代

昨年十二月末、学校法人徳山教育財団が  
運営する徳山大学の学長職を病気のため辞  
職したい意志を、高村理事長に届出で許可  
を得たのは事実であるが、法人の理事とし  
て、又徳山大学名誉教授として名をつらね  
ているので、学校法人徳山教育財団と全部  
縁が切れた訳でもなければ、従って徳山大  
学校友会の諸君と全く縁が切れた訳でもな  
い。むしろ五十年近い私立大学経営の体験  
を理事を通じて高村理事長に意見具申を  
する積りである。私の現在の心境は校友会  
の諸君の意見と同じく過去十年恙なく発展  
して来た徳山大学すなわち諸君の母校の今  
後の一層の発展を請願願うからである。

昭和四十六年四月徳山大学が開学した当  
初は僅に百二十数名が入学したばかりで、  
教授陣営も正直のところまだ充分整備され  
たとはいえなかった。もちろんクラブ活動  
もまだ活発とはいえなかった。しかし私の  
脳裡から忘れられないことは、現在の校友  
会会長が秋の大学祭の名称を、「ポプラ祭」  
と名づけたことである。それは徳山大学が  
ポプラのごとく天空を摩して限りなく伸び  
て行く前途を予言したものの如くであった。



徳山大学創立の意義  
徳山大学学長 高村坂彦

本学は私が徳山市長時代に創立したので  
あるが、その後の着実な歩みは周知の如く  
である。しかしその歩みがありにも順調  
すぎたために最近本学の創立理由——建学  
の精神——が希薄になってきたように思う。  
そこでもう一度本学の創立理由を質してみ  
たい。

当時全国の大学では左翼学生が暴徒と化  
し、とても静かに勉学に励める状態ではな  
かった。私はこのような教育の荒廃をもた  
らしたものは戦後教育の結果と考えたので  
ある。すなわち日本の戦後政治は占領軍の  
意図によって「民主化」の名の下で諸制度  
の変革がなされた。教育制度もまた教育の  
自主尊重主義、一般行政との分離独立主義、  
地方分権主義といったものを特徴とする欧  
米の公教育法制に変革されたのである。ま  
た学問の自由への復権も戦争中の極端な文  
教行政——たとえば敵性思想の掃蕩など——  
の反動として、占領軍の心理戦としての

「民主化」による一連の政策として打ち出  
された。しかしそこには日本弱体化の思惑  
もまた秘められていたのである。

このような占領軍による文教行政の変革  
の結果は、20年後の日本社会に明確に現わ  
れてきた。たとえば私立大学を営利事業と  
考える大学経営者の出現や前述した左翼学  
生の暴徒化または暴力団まがいの学生集団  
の存在などである。

私はこのような戦後日本の大学の悲惨な  
姿に義憤を感じ、徳山大学を日本の大学の  
モデル校にするべく創立した。具体的には、  
塾教育——たとえば松下村塾——や藩校の再  
評価あるいは建学に際して独自の個性を持  
っている私学の足跡を再検討することから  
はじめたいと考えたのである。

大学のもつ重要な使命のひとつに、国家  
・社会に対する問題提起がある。戦後教育  
への警鐘もまたわれわれ大学人としての重  
大な務めではないだろうか。

さて学長退任の挨拶に当りやや私事にわ  
たって恐縮であるが、自由を愛し独裁と強  
権に反対する自由文教人連盟の中に湯村中  
央学院学長も現高村理事長も今田も名を連  
ねていたことが、奇しき縁となり、三者  
がいづれもこの特徴を生かして徳山大学の  
誕生となったことである。私が徳山市(当  
時市長は高村現学長)が中央学院湯村学長  
との会談により徳山に大学を招致する話し  
が成立し、徳山市議会もこれを可決し、確  
か昭和四十四年十月中央学院理事会もこれ  
を了承することになったが、教授陣営の整  
備のため湯村学長の命を受けて、高木幸道  
中央学院教授がその恩師川又早大教授と共  
に、東京永福町の今田邸に來宅され協力を  
申し入れられたのが、機会となり、昭和  
四十七年秋から昭和五十七年十二月まで徳  
山大学の学長を委嘱され、約十一年間教学を  
中心として徳山大学の発展に努力すること  
になったのである。

最後になって申訳けないが過日徳山大学  
校友会より高価な退任記念品を頂いたこと  
を重ねて厚く御礼申し上げます。  
(昭和五十七年十一月十九日記)

# 校友会新事業について

## 徳山大学校友会会長 豊岡正行

同窓諸兄におかれては益々御健勝のことと存じます。

さて昨年は母校徳山大学が十周年の記念すべき節目を迎えました。その記念事業として記念会館(体育館)学生館等が建設され、校友会から後世に残る記念品として記念会館ステージに綴帳を寄贈いたしました。ここに御報告申し上げますとともに同窓諸兄の絶大なる御支援、御協力に對して衷心より厚く御礼申し上げます。

周知のとおり本会の目的は會員相互の親睦を図ることと、母校の発展に寄与することとであります。この基本的な理念により種々事業を推進していることはすでに本誌でお知らせしているとおりで、今回は校友会の飛躍的な新事業を御報告申し上げます。

それは学生諸君の福利厚生に関わる二大事業であり、校友会まさにここに有りと自負できる事業であると確信しております。

その一つは喫茶部の開設であります。昨年十周年記念事業として建設された学生会館の運営について相談を受け幹事会等で充分調査、審議を重ねました。その結果収支の面で損益を生じないことと、後輩諸君への福利厚生の援助という二点の理由から決断をし、五十七年一月十一日をもって業務委託を受け運営しております。その内容は学生食堂との整合性という理由から飲料関係のみを扱っておりますが、損益を生じなければよくまた学生諸君の交流の場、憩いの場となることを目的であるため、良質の珈琲をはじめすべて百円均一でサービスの提供に努めております。我々のこうした熱意と従業員の方々の親切な対応のおかげで、一日平均二百名程度の利用者があり非常に評判もよく徳山大学の新名所として定着しつつあります。同窓諸兄が大学にお立ち寄りの際は、ぜひ校友会喫茶部で親しく談話を交わしたいと存じます。その二つ目は学生寮の業務委託であります。現在大学には光風寮、楠寮、城ヶ丘寮の三寮に百二十名の学生が寮生活を送っております。これも前者同様の理由により大学の業務委託を受け本年度から寮経営に踏み切った次第でございます。とは申しましたも寮の運営には学生諸君の生活指導等の教育的側面に関わる重要な問題があります。この部分に関しては従来通り大学学生部に任せ、校友会は寮の施設や食事等経理面を引き受け役割分担を充分計って推進しているところでございます。

先般学生諸団体の代表者との懇談会をもちこうした校友会の事業ならびに使命を説明いたしました。が、會員各位の御理解によりこころ近來他に例を見ないほど発展的な飛躍を遂げていることに学生諸君も非常な驚きを感じておりました。

校友会は難しい理屈を論じる必要は全くなく、會員相互の信頼関係があれば充分にと足りる組織でございます。また校友会は大学と運命をともにする共同体でございます。それは我母校が私立大学であるだけに益々顕著になるものと信じます。徳山大学が新しい節目を迎えようとしている今、會員各位の母校愛に支えられながら、役員一同一丸となりより一層の努力を惜まぬ所存でございます。會員各位の旧来に倍します御支援をお願い申し上げますとともに各分野での益々の御活躍を期して御報告申し上げます。

す。なおこの二つの新事業を円滑に運営するため福原良裕(喫茶)・八木馨三(寮)両幹事をその責任者として進めております。また校友会のこうした発展により事務局の強化を計るため、本年度より女性の事務員を雇用し支障のないよう組織の充実化しております。

**MENU**

コーヒー  
紅茶  
ココア  
パインジュース  
オレンジジュース  
ミックスジュース  
レモンスカッシュ  
オレンジスカッシュ  
ミルク

セルフサービス  
オール¥100

メロンスカッシュ  
ストロベリースカッシュ  
コーラ

徳山大学校友会喫茶部

▲安いメニューは学生に好評!



▲校友会喫茶部内で談笑する学生たち



▲周南バイパス沿にある楠寮

▲校友会喫茶で働いている渡辺悦子さん(写真右) 藤田美恵さん(同左)に学生の印象を聞いてみました。渡辺さん「私は大学の近所に住んでいますが、外から見ていた印象とは大違いで明るくていい学生ばかりで私も毎日楽しく働いています。

藤田さん「とても素直で礼儀が正しいです」

学生の校友会喫茶に対する印象は

- A君 メニューが安い
- B君 友達との語らいの場が出来た
- Cさん 毎日来てます
- D君 何も飲まなくても椅子に座れる

### 昭和57年度校友会予算書(案)

(自 昭和57年4月1日～至 昭和58年3月31日)

歳入の部		歳出の部	
科目	予算額	科目	予算額
繰越金	4,406,885	会務運営費	1,910,000
(54年度、55年度 56年度事業積立金)	4,000,000	(備品費)	100,000
(繰越金)	406,885	(会議費)	300,000
会費	4,700,000	(通信費)	450,000
(第9期生会費)	4,500,000	(事務費)	50,000
(追徴会費)	150,000	(渉外費)	50,000
(推薦会費)	50,000	(慶弔費)	100,000
雑収入	120,000	(諸会費)	10,000
(雑収入)	20,000	(交通費)	150,000
(受取利息)	100,000	(人件費)	700,000
		事業費	1,640,000
		(名簿作成費)	100,000
		(支部結成費)	40,000
		(機関誌発行費)	200,000
		(事業費)	500,000
		(記念品費)	480,000
		(喫茶運営費)	320,000
		(10周年記念部会)	
		援助費	600,000
		(県人会助成金)	250,000
		(学生団体助成金)	300,000
		(学生懇談会助成)	50,000
		次年度繰越金	5,000,000
		(57年度事業積立金)	1,000,000
		(事業積立繰越金)	4,000,000
		予備費	76,885
合計	9,226,885	合計	9,226,885

### 昭和56年度校友会決算書

(自 昭和56年4月1日～至 昭和57年3月31日)

歳入の部			歳出の部		
科目	予算額	決算額	科目	予算額	決算額
繰越金	5,835,298	5,835,298	会務運営費	1,172,000	655,794
(54年度、55年度 56年度事業積立金)	4,056,082	4,056,082	(会議費)	300,000	262,144
(繰越金)	1,779,216	1,779,216	(通信費)	461,000	227,040
会費	4,400,000	3,900,000	(事務費)	31,000	2,840
(第8期生会費)	4,000,000	3,810,000	(渉外費)	100,000	12,000
(追徴会費)	200,000	90,000	(慶弔費)	50,000	41,000
(推薦会費)	200,000	0	(諸会費)	10,000	5,000
雑収入	80,000	243,841	(交通費)	100,000	90,770
(雑収入)	5,000	128,560	(人件費)	120,000	15,000
(受取利息)	75,000	115,281	事業費	4,046,000	4,506,460
			(名簿作成部会)	846,000	708,100
			(支部結成部会)	180,000	145,490
			(機関誌部会)	220,000	125,500
			(記念品費)	600,000	300,000
			(10周年記念部会)	200,000	147,370
			(記念事業)	2,000,000	3,080,000
			援助費	700,000	410,000
			(学生団体助成金)	650,000	380,000
			(学生懇談会助成)	50,000	30,000
			次年度繰越金	4,056,082	4,406,885
			(56年度事業積立金)	2,000,000	2,000,000
			(事業積立繰越金)	2,056,082	2,000,000
			(繰越金)	0	406,885
			予備費	341,216	0
合計	10,315,298	9,979,139	合計	10,315,298	9,979,139

4月25日、赤松会計監査委員(1期)の監査を受け、適正であることを認められました。

# 柔道部悲願の初優勝

## 第28回中・四国学生柔道優勝大会

昭和57年6月19日、晴れたる大空のもと、徳山市体育館に中四国に於いて柔道を修業する学生延べ二百七十名余が集まった。

各人一年間の成果を發揮し、各大学の名譽を高めんとする意気込みを露に気合が入っていた。我、徳山大学柔道部の面々も地元を代表して大会に、これを迎えよう、必勝の気構えと闘志が溢れていた。

過去、本学は一昨年の4位、昨年の3位と上昇気流に乗って躍進してきた。本年は念願の優勝を地元でやるぞと燃え、又、地元の声援も最高潮に達していた。

しかし、他の大学も若輩の徳山大学に優勝を許すまじと一丸となっていた。午前9時、それぞれの意思を秘め、試合は開始された。

試合は、第一次リーグ戦から始まった。徳山大学⑦-① 広島電機大学 圧倒的に大勝する。

徳山大学④-① 広島大学 何なく一蹴する。

徳山大学④-② 岡山大学 本大会で、過去最多の優勝を誇る、伝統のある岡山大学は、さすがに食いついたが、最後に本学主将の山本邦生(4年)が背負い投げで突き離す。

ここで、一次リーグ戦で一位となり、二次リーグ戦に進む。

第二次リーグ戦 徳山大学⑦-① 徳島大学 岡山大学戦で苦戦をさせられ、気合が入ったのか⑦-①で圧勝した。

徳山大学②-① 岡山商科大学 ②-① 本学とともに、近年メキメキと力をつけてきた岡山商科大学との対戦、一昨年接戦の末、涙をのまれた本学だけに、是非とも勝ちたい相手、又、事実上の決勝戦と誰もが思っている試合であった。



船井の内股惜しくも場外 対岡山



第28回中国四国学生柔道優勝大会

試合前、選手一同を集め、この試合の大事さを確認し、試合へのぞむ。

先鋒 安藤 嘉浩(3年) 引分 岡本 イブで、右と左、低い姿勢から引き手の取り合いとなる。

中盤、低い背負い投げの応酬となり、互いに決らず。

終盤、安藤の右背負い投げ、強引にいくが、これももう一つ、それならばと大外刈りに変化したが、惜しくも決まらず、ここで時間、引分となる。

次鋒 船井 正史(1年) 引分 安田 船井は一年生ながら百二十キロ、百八十センチの体格を活かし、本学のポイントゲッターとしての役目を果たしている。

又、対する安田も昨年の九五キロ以下級の中国チャンピオンで、岡商大のポイントゲッターである。

ポイントゲッター同志の戦いを場内唾を飲んで見守る。

序盤、左ガブプリに組み、機を窺うての内股払い腰を掛け合うが決らず、中盤場外際で、船井支え釣り込み足をタイミングよく掛ければ、安田横倒しに倒れるが、主審取らず、これに気がよくして船井、内股大外刈と攻めるも効なし、終盤に最後の力を振り絞り、船井内股にいくと安田堪らずフツ飛ぶ。主審一本を宣するが、副審が場外のジェスチャー。

合議の後場外となり、一本を取り消す。結局そのまま引分、惜しくも引分だが、場内を沸かせる好試合に本学の意気上がた。

五将 西 正勝(3年) 有効勝ち 田中 興奮の内に五将西が場内上がる。

互いに様子を窺う内に、田中内股に思い切りよくくる。西、待つてましたとこれを逃かすと、

田中堪らず倒れる。主審「有効」を宣する。その後、一本を取ろうと西、内股、大外刈りと攻めるが効なし、後半、寝技に移り、西攻めるも決まらず「まで」そのまま時間切れで本学貴重な先取点を取る。

中堅 上田 賢治(2年) 合せ技 川端 上田は、将来本学を背負い立つ有望な選手、しかし、今回はケガに泣かされ精彩を欠く。

一方、岡商大の重鎮、川端、上田強引な大外刈りに何度も。再度、大外刈りにくる上田を川端、読んでこれを返せば技有りとなる。そのまま上田方面に入れば、上田動けず25秒経過、技有り合せ一本となる。

本学不覚の一敗を喫し、一対一となる。

三将 桑原 孝洋(2年) 引分 村上 一対一となり、互いに気合が入り、三将戦を迎える。桑原2年ながらも鋭い攻撃を得意とする副将。桑原組み手争いで持ち勝ち、右大内刈りに入ると、村上ドットと崩れ落ちるが、惜しくも場外。

その後、互いに攻め合うも決まらず引分。

副将 小川 正則(4年) 技有 近藤 小川、小兵ながらも気合の溢れた試合好き。互いにポイントを取り上げようとする。始めのうちは、岡商大の副将、近藤も虚を突かれ、弧を描き飛び、技有り。しかし近藤も地力がある選手、得意の巴投げにいくが、小川我慢出来ず飛び体が捻り、「有効」。その後、互いに積極的に攻め合うも決め手なく、時間が過ぎる。終盤、近藤必死の巴投げにいくが、小川飛ぶが「有効」。ここで時間、小川の技有がきいて「技有り」勝ち、これで二対一と本学がリードする。

大將 山本 邦生(4年) 引分 住田 本学が一点をリードして大将戦になる。

本学は主将の山本が出る。山本は中量級ながらいぶし銀の光を放つ選手。一方、一点を必ず取るぞとできた住田はナショナルチームに入る全国的な強豪、互いに向かい合い、礼の後大きく構え一歩前に出る。

序盤、組み手争いになる。いい組手を取り、優位に立ちたいところ。中盤、機を窺いながらの技の応酬となるが決まらず。

後半、引分を考えてか、山本守勢に廻ったところを住田得意の大内刈りに入る。山本ぐらつき腰から落ちるが、ポイントにはならず、その後激しい攻防の結果時間引分となり、本学は決勝戦に駒を進める。

最大のヤマ場を切り抜けた本学柔道部は、一息入れかえ、決勝戦へと向う。この時、大学関係者諸氏の応援もピークとなり、激励の渦巻く。一方、対するは昨年度本大会優勝の四国の雄、

松山商科大を激戦の末倒し、勝ち上がった徳山大学。こちらも後半力を上げてきたチームである。

決勝戦 徳山大学②-① 島根大学

先鋒 安藤 嘉浩(3年) 引分 西谷 安藤は、一本を取ろうと大内刈りに、背負い投げに攻めるが浅く決まらず。西谷、強引な内股に攻めるが安藤よく防く。安藤大内刈りから奇襲の左大外刈りに入るが、これも捌かれてからならず、互いによく動くが決め技なく時間となり引分。

次鋒 小川 引分 井上 互いに小兵同志の戦いとなる。島根大学の井上は名門天理高から今春来た有望選手。本学の小川も準決勝で貴重なポイントを取り上げ意気盛んである。

互いに有利に組もうと低い姿勢から組手争い。中盤、井上右背負い投げを掛けたが、小川これを潰し、上から絞めを狙う。うまく手が首に入り、腰絞りに変化し絞める。井上苦しむがうまく我慢し逃れる。その後互いに早い動きから背負い投げ、巴投げとアクロバティックな技を施すが効なく時間、引分。

五将 西 正勝(3年) 片上 西、自信満々に大きく構える。一分過ぎ、片上内股にくるところをうまく西、透かして逆に内股にいく。井上、バランスを崩している為、横から飛び「有効」。その後、場外際の攻防となるが効なし。

終盤、片上がつぼり持ち、強引に押しつけてくるところを西、大腰に入れば、片上堪らずもんどりうって倒れ「一本」となる。又も先制の点を西奪う。

中堅 上田 賢治(2年) 板根 巨漢上田に対して、板根は中量級。上田、右奥えりを取り、大外刈り、払い腰と攻めれば板根、低い位置から小内刈り、背負い投げと応じ

板根背負い投げにすれば、上田これを潰し、寝技を狙う。上田強引に押し込めようとするが、板根必死で逃げる。この攻防で時間となり引分。

三将 船井 正史(1年) 金築 今度もポイントゲッター同志となる。島根大金築は袖釣り込み腰で中・四国で名を轟かせた選手。

序盤、組手争いになる。金築、いい組手になった瞬間得意の袖釣り込み腰に入る。船井よく心得ていてこれを引き手を切り逃れる。

船井ならばと反対に払い腰、大外刈りで連続攻撃するが決まらず、船井前への技がからないうとみるや右大外刈りに変化させる。金築、前技に気を取られていた為、大きく崩れるが、場外。その後互いに慎重になり時間、引分。

ここで巻き返さんと渡部出てくる。桑原元気のよい試合は信条とこれを受けて立つ。

渡部、低いところから右内股にすれば、桑原なんのと潰す。中盤、桑原得意のスピードを生かした大外刈りにいくが、引き手が足りずに倒すがポイントならず。

後半、渡部大外返しを狙い、守勢に廻ったところを桑原連続的に大外刈り、大内刈り、小外刈りと攻撃するが、今一つ決めてなく時間、引分。

大將 山本 邦生(4年) 背負い投げ 西尾 一対一を迎えた大将戦。島根大西尾、なんとか挽回せんと仁王の形相で立つ。山本、闘志を秘めつつも、冷静にこれを受ける。

開始一分過ぎ、山本得意の右背負い投げに低く入れば、西尾堪らず倒れ「技有り」山本、ならばと続けざまに背負い投げ、小内刈り、大内刈りとなる。

中盤、波に乗った山本の右の背負い投げが、西尾のふところを爆発し、西尾大きく弧を描きふっ飛ばす。「一本」。この瞬間、我徳山大学の初優勝が決まる。

この劇的な地元での初優勝に選手一同、男涙で喜び、又徳山大学関係者も手を取り合い、嬉しさをかみしめ合う。

やっとの思いの初優勝であるが、これも徳山大学関係者、OBの方々、又今春より部長になって頂いた杉本先生等諸氏のご指導、ご鞭撻のおかげと柔道部一同感謝しており、心よりお礼申し上げます。

本学柔道部は、この経験を生かし、なお一層努力、精進し、頑張る所存でありますので、今後共よろしくご指導ご鞭撻の程お願い申し上げます。



優秀選手に選ばれた山本主将の押え込み

序盤、組手争いになる。金築、いい組手になった瞬間得意の袖釣り込み腰に入る。船井よく心得ていてこれを引き手を切り逃れる。

船井ならばと反対に払い腰、大外刈りで連続攻撃するが決まらず、船井前への技がからないうとみるや右大外刈りに変化させる。金築、前技に気を取られていた為、大きく崩れるが、場外。その後互いに慎重になり時間、引分。

ここで巻き返さんと渡部出てくる。桑原元気のよい試合は信条とこれを受けて立つ。

渡部、低いところから右内股にすれば、桑原なんのと潰す。中盤、桑原得意のスピードを生かした大外刈りにいくが、引き手が足りずに倒すがポイントならず。

後半、渡部大外返しを狙い、守勢に廻ったところを桑原連続的に大外刈り、大内刈り、小外刈りと攻撃するが、今一つ決めてなく時間、引分。

大將 山本 邦生(4年) 背負い投げ 西尾 一対一を迎えた大将戦。島根大西尾、なんとか挽回せんと仁王の形相で立つ。山本、闘志を秘めつつも、冷静にこれを受ける。

開始一分過ぎ、山本得意の右背負い投げに低く入れば、西尾堪らず倒れ「技有り」山本、ならばと続けざまに背負い投げ、小内刈り、大内刈りとなる。

中盤、波に乗った山本の右の背負い投げが、西尾のふところを爆発し、西尾大きく弧を描きふっ飛ばす。「一本」。この瞬間、我徳山大学の初優勝が決まる。

この劇的な地元での初優勝に選手一同、男涙で喜び、又徳山大学関係者も手を取り合い、嬉しさをかみしめ合う。

やっとの思いの初優勝であるが、これも徳山大学関係者、OBの方々、又今春より部長になって頂いた杉本先生等諸氏のご指導、ご鞭撻のおかげと柔道部一同感謝しており、心よりお礼申し上げます。

本学柔道部は、この経験を生かし、なお一層努力、精進し、頑張る所存でありますので、今後共よろしくご指導ご鞭撻の程お願い申し上げます。

### 各部活動報告

本年1月より11月までの各クラブの主な結果は次の通りです。

#### ◎合気道部

全日本合気道演武大会出場場(日本武道館) 戸井田博文(3年) 山口 浩(3年) 日・タイ親善合気道遠征隊1名

徳山大学合気道部の意気、名声を高め、世界に雄飛し、東洋文化を研究・見聞するとともに、合気道を通じて他国文化を知り、日本国を再認識する事を目的としたタイ遠征を実施(本学合気道部員17名参加)

中・四国学生合気道演武大会出場場(高松)

#### ◎空手道部

第7回中・四国学生空手道個人選手権大会出場場(広島) 第20回西日本学生空手道選手権大会(大阪)

徳山大学0-4大阪経済大(一回戦) 全日本学生空手道個人選手権大会出場場(日本武道館)

西川 一美(4年) 日本正副館長空手道選手権大会出場場(滋賀県立体育館)

徳山大学A4-1仏教大 徳山大学A3-1滋賀大 徳山大学A4-1大阪大

徳山大学A...優勝 個人戦 1位 西川 一美(4年) 2位 藤井 圭哉(4年) 3位 脇坂 泰史(3年)

第20回中・四国大学空手道選手権大会出場場(島根) 団体ベスト8

第26回全日本学生空手道選手権大会出場場(大阪) 徳山大学3-1大阪電気通信大 徳山大学3-2名古屋学院大 徳山大学2-3国士館大

◎硬式庭球部 中・四国学生学生座決定戦及び中・四国学生トーナメント大会出場場(岡山) 団体ベスト4部優勝

徳山大学6-3岡山理大 徳山大学8-1川崎医大 徳山大学6-0香川大 個人戦 白谷 健治(4年) ベスト8

3部4部入替戦(松山) 全日本学生庭球選手権大会出場場(東京) 中・四国学生庭球選手権出場場(松山) シングルス白谷(ベスト8)

ダブルス 白谷・山田(愛大)組(ベスト4) 桑本 耕社(3年) 島田 泰法

中・四国学生新進トーナメント大会出場場(松山) 中・四国学生優勝 桑本 耕社(3年)

◎硬式野球部 中国六大学野球春季リーグ戦出場場(岡山・福山・島根・徳山) (出場チーム) 徳山・福山・岡山・岡山

(戦績) 10勝2敗 勝点5 優勝 (個人賞) 最優秀選手賞 宇野 研二(4年) 5勝0敗

ベストナイン 宇野 研二(4年) 尾高 徹(3年) 草野 正行(3年) 比留間 靖(3年) 土井内 充(4年)

(次ページにつづく)

◎剣道部

全日本大学野球西部地区代表決定戦(岡山)
徳山大3-4高知大
徳山大2-14高知大

◎弓道部

中国学生弓道競技大会出場(松江)
第26回西日本学生弓道選手権大会(松江)
全日本学生弓道選手権大会出場(日本武道館)

◎ゴルフ部

中・四国学生ゴルフ春季一部リーグ戦(広島)
(東広島カントリー)
団体戦 優勝

◎柔道部

中・四国学生柔道体別選手権大会(広島)
65kg以下級 3位 西出 大作(2年)
65kg以下級 2位 小川 正則(4年)

◎卓球部

中国学生卓球選手権春季大会(広島)
団体戦 一回戦敗退
個人戦 シングルス 優勝 岡野 淳一(3年)

◎バスケットボール部

第8回中国学生バスケットボール春季大会(岡山)
徳山大67-90岡山山
第32回西日本学生バスケットボール選手権大会(徳山)

◎レスリング

西日本学生レスリング春季新人戦
52kg級 2位 国広 幸信(1年)
62kg級 3位 畑中 敏和(2年)

◎サッカー部

野上杯 県サッカー選手権(防府スポーツセンター)
第3位
徳山大11-1宇部協和

◎陸上競技部

第13回全日本大学駅伝対校選手権大会(名古屋)
(名古屋伊勢) 15位
第36回中国・四国学生陸上競技対校選手権大会(岡山)

◎ラグビー部

第11回大学高専ラグビーフットボール大会(県内)
徳山大30-0水産大学

◎ボクシング部

中国アマチュアボクシング新人選手権大会(鳥取)
ライトフライ級 3位 藤本 誠司(2年)

◎軟式野球部

中・四国学生軟式野球大会出場(徳山)
山口県大会(徳山)
第1位 岡本 善行(3年)

◎吹奏楽部

第21回山口県吹奏楽コンクール(宇部)
大学Aの部 金賞
全日本吹奏楽コンクール中国大会(米子)

◎地歴研究会

岡山県内の石造塔婆を調査(徳山)
第1回の合同展示会を7月3日-7月5日まで徳山市民館にて開催し、好評を博した。

◎芸術部・写真部

十周年記念事業にあたって左記のOBの方よりご寄付をいただきました。校友会寄贈の歳帳代の一部にさせていただきます。どうもありがとうございました。

◎日本文化研究会

大学寮にて空き缶五千三百個による「錦帯橋」を作成
環境美化のPRを行った。

◎少林寺拳法部

西日本六大学野球春季2部リーグ戦(下関)
徳山大0-3福山大
徳山大6-0岡山理大

◎J.A.C.F.A.S.P.I.C.H.コンテスト

3位 山川雄一郎(3年)



- List of names and amounts for the J.A.C.F.A.S.P.I.C.H. contest winners, including 鈴木 淳 (8期), 谷口 宏次 (8期), 元山 品文 (3期), etc.